

2022年度 軟式庭球部 インタビュー

部員数	20人以下	主な成績
所属学群	体育専門学群, 人文・文化学群, 人間学群, 生命環境学群, 理工学群, 総合学域群, 大学院	2022関東学生春季リーグ戦 女子3部4位 2022関東学生春季リーグ戦 男子3部6位
練習場所	体芸テニスコート、中Bテニスコート	

小林 桃子(比文3年/主将)
倉林 直毅(社工2年)

一 私が目指す「テニス」

小林

ソフトテニスのリーグ戦は団体戦なので、観ている人の心を惹きつけるテニスを目指しています。技術面はもちろんですが、チームや自分を鼓舞する声を出しながら、気迫を込めた一球一球を打ちたい。そのためには、ともすればくじけそうになる自分を跳ね除けるための地道な練習が必要です。圧倒的な緊張感の中、コート上にいる人と応援側で一体となって勝利を目指していくその空気感・高揚感を味わえることが何といても部活動の醍醐味だと思います。

倉林

団体戦の中でチームの勝利に貢献するために、「負けないテニス」「人に応援してもらえるようなプレーをすること」を目指しています。ソフトテニスは圧倒的な必勝法というものが無く、相手との駆け引きの中で試合が進みます。どのような状況の中でも環境や己、そして相手に負けない準備を練習の中で積んでおくことを日々心掛けています。



— 筑波大学をどう思っていた？

小林

高校2年生の時に軟式庭球部の練習にお邪魔し、とにかく柔らかい雰囲気の人が多いと思ったのが第一印象です。また、大学説明会で教授とお話しする機会をいただき、自分の勉強したいことやその不安をお伝えしたことがありました。そこでは、「大学に入ってから、したい勉強が変わらなかつたら、それは大学の負けです。」と、今の不安は大学で勉強するうちに前向きに更新できるものだという話をしてくださり、変化に肯定的な場に身を置けることにとても魅力を感じました。そこからは大学や教授、テニス部のファンのような気持ちで勉強しました。その魅力は大学に入学して3年経った今でも日々実感することができています。

倉林

国立大学なのに部活動に力を入れている大学だな、と思っていました。体育専門学群があるからだと思いますが、他大学でこんなに思いきりスポーツに打ち込めるところはあまり聞いたことがないような気がします。

— 今のチームで学んだこと、チームの好きなおところ

小林

軟式庭球部の魅力といえば、とにかく人が良いところです。男女・学年の垣根がなく、技術面でも組織面でも、壁にぶつかった時に話し合いを通じて良い方向へ進もうとする共通認識があるように感じます。また、強豪校出身の実力者から中学のみの経験者など、個人のレベルには差があ

りますが、だからこそ全員で声を掛け合いつつ、頭を使って上達できるのが大きな特徴だと思います。

3年間の部活経験を通して学んだことは、各学年で学ぶことがあり、それは順番に巡ってきているということです。下級生として先輩に頼りきってきた分、主将となった今は後輩のケアを大事にしたり、心がすり減る覚悟を持ってチームを鼓舞することが役割だと思っています。それに後輩も応えようとしてくれるとき、部に良いエネルギーが循環していると感じます。

倉林

筑波大学はどの部活も強豪というイメージがあり、私自身入部する際も「筑波大学の部活動？」と周囲の人に驚かれたのですが、我々軟式庭球部は体育専門学群の部員はむしろ少なく、様々な学群の学生が所属していることが魅力です。多様性という言葉がぴったりだと感じています。



一 これからの目標(直近の目標、人生の目標)

小林

直近の目標は、秋のリーグ戦でチーム全員が実力を出しきり、結果として3部で優勝することです。大好きなチームの仲間と過ごせる時間を思いきり楽しみつつ、今年の酷暑を乗り切りたいと思います。

人生の目標は難しいですね……。大切な人たちや熱中できることと向き合える今の時間にとっても幸せを感じるので、そんな環境に身を置けることに感謝しつつ、今後の人生でも自身でそんな豊かな空間を作っていくことを今は目標にしたいです。

倉林

勉強や生活面と部活動を両立し、しっかり取り組んでいくために「何事にも逃げずに挑戦する」ことを目標にしています。どれも今しかできないことなので、後悔のない大学生活にしたいです。

— 未来のチームメイトに一言

小林

上を向き続けることは簡単ではないですが、粘り続ければどんな形であれ良いことがあると思います。一緒にテニスをする日を楽しみにしています！！

倉林

大学でもテニス続けることを迷っている人がいるかもしれませんが、やはり中学・高校とは違って大学ならではの楽しさがあります。一緒にテニスをしましょう！コートで待ってます！！

